夢追人Ｖ

かとう学園　宗像市立河東中学校
学校通信2月　第45号(R4. 2. 15)

陸上部女子、福岡県新人駅伝大会で６位入賞！

11 日（金）博多の森陸上競技場周回コースで開催された、第 36 回女子福岡県中学校新人駅伝競走大会で、本校陸上部が見事 6 位入賞を果たしました。36分 47秒という好記録を残しました。1 月の筑前地区大会で優勝を飾った時のタイムより約 1 分ほど記録を更新する走りでした。また、選手全員が自己ベストを記録更新するという良い結果でした。コロナ禍で感染防止に神経を使いながらも、一人一人が能力を高め、チームとしても向上してきた成果です。この大会で、本年度のすべての中体連大会が終了しました。最後の大会で陸上部が有終の美を飾ってくれました。

公立高校一般入試に向けて
～　残り３週間で上乗せしたい４つのこと　～

今日の午後は、３年生の先生たちは半日かけて公立高校に提出する書類の点検をし、明日手分けして高校へ提出します。

さて、３年生の大半が３月８日に行われる公立一般入試を受検します。残り３週間で心がけるべきことは何でしょうか。４つのことを参考にしてください。１・２年生のみなさんも来年・再来年受検するので知っておいてください。

①　記述力・文章で答える力の強化
②　過去問で問題の傾向に慣れる
③　考え抜く力をさらに向上させる
④　プライオリティ（Priority、優先順位）を考えて勉強する

①は、福岡県の公立入試問題の最大の特徴です。近年、どこの県でもこの傾向が進んでいますが、福岡県は特に顕著です。下の昨年度の問題例でわかると思いますが、国語や英語はもちろん全教科に言えることです。

まず、国語。最後の大問４では、

問　「食品ロス削減のために自分にできること」を、あなたならどう考えるか、
　次の条件１から条件４に従い、作文せよ。
・・・条件４　10 行以上、12 行以内で書くこと。（1 行は２０字なので２００字～２４０字）

この学校だよりでは、生徒会役員や各部・クラブチームの代表に決意文をのせていますが、２００字で書いてもらっているので、河東中の生徒は２００字の文章をたくさん読んでいるため、感覚がわかっていると思います。

２００字程度にまとめる力をさらに練習しておきましょう。

次に、英語です。英語の最後の問題も昨年度の大問４を例にあげると、

英会話教室を対面かオンラインかのどちらがよいか、英単語３０語以上を使って書くこと。

また、数学では、＜説明＞や＜証明＞を求める問題も複数ずつ出ています。社会や理科でも、文章で答える問題が他県に比べ非常に多いと言えます。昨年の社会の大問６の回答用紙を見てみましょう。

6	問１	A	（例）出生数が減少し，平均寿命がのびている
		B	少子高齢
	問２		（例）全就業者数に占める，65歳以上の就業者数の割合が大きくなっている
	問３		（例）生きがいを見つける

以上、みてきてわかるように福岡県の公立入試では書く力が大切であることがわかるでしょう。

次に、②過去問で問題の傾向に慣れることが大切です。かつて過去問を解いたことがある人も直前に過去数年分の過去問をやってみて、頭を慣らしておく必要があります。また、過去問を解いていくと、自分がどの内容・どの分野を復習しておくべきかが自然と浮かび上がってきます。

福岡県の問題は、どの教科も１つのことだけを考えただけでは正解が出せない問題が多いです。つまり、複数のことをつなぎ合わせて考える力が必要です。少し考えて、さらっと答えが出てこないことがよくあると思います。③にあげたように、今一度粘り強く考える習慣を強化しておきましょう。

④についてです。勉強できる残された時間は限られています。日々の勉強をする時に、今日やるべきことの優先順位を考えましょう。英語で Priority（プライオリティ）といいます。将来、仕事に就いてからも、仕事のプライオリティが大事であることを覚えておいてください。

公立一般入試を受検するみなさん、最後まで頑張り抜いてください。やり切ったかどうかが大きな意味を持つと思います。周りの仲間や家族みんなで、みなさんを応援しています。すでに進路が決まっている３年生が、今も授業に集中しきちんとした学校生活を送っていることに感謝し頼もしく思っています。引き続き、最後の受検者のことまで思いやりサポートしていってください。

羽生結弦選手の努力論
～「努力はウソをつく、でも無駄にはならない。」～

北京オリンピック・フィギュアで羽生結弦選手は、４位に終わり五輪３連覇はならなかった。しかし、羽生選手がフリー演技の最初のジャンプでこれまでまだ誰も飛んだことがない４回転半ジャンプ・クワッドアクセルに挑戦した意義は大きいと思います。彼は、演技後のインタビューでこう話していました。「正直全部出し切った。前の大会よりいいアクセルジャンプを飛んでいた。もうちょっとと思う気持ちもあるが、あれが僕のすべてです」。

その羽生選手が練習の虫で、誰よりも多くの時間練習して努力しているというのは有名な話です。羽生選手が以前試合に負けた時のインタビューで、努力についてこんなことを言っていたのを思い出します。

「努力はウソをつく、でも無駄にはならない。努力がウソをつかないんだったら、やっぱり練習量を１番している人が毎回、毎回、優勝できるでしょう。オリンピックでも世界選手権でも。どんなに努力している人でも、勝てない時は勝てないんだなと思った。逆に本当に若い選手が勢いで勝つこともある。そういう意味で努力っていうものはウソをつく。だから、努力の正解を見つけることが大切なんだ。」と語っていました。

世間一般には、「努力はウソをつかない」と言われます。しかし、羽生選手が言う方が現実だと思います。スポーツの世界で酸いも甘いも知り尽くしたから語れる真実の言葉だと思います。

こんなに練習してきたのに勝てないのか、という羽生選手の悔しさの中での言葉です。羽生選手が言っている努力の正解って何でしょうか。努力するといい結果がでることがあります。しかし、努力してもいい結果が出ないこともあります。ただ、はっきり言えるのは、努力することで必ず人は成長します。結果も大事ですが、それ以上に大事なのは物事に取り組んだ成果ではないでしょうか。努力の本当の意味は、その過程にあるのではないでしょうか。